



大会概要

2024年 SUPER GTシリーズ 第5戦

大会名称

2024 AUTOBACS SUPER GT Round5 SUZUKA GT 300KM RACE GRAND FINAL

開催日時

12月7日 土曜 (予選) 12月8日 日曜 (決勝)

開催サーキット

鈴鹿サーキット (1周 : 5.807km)

同時開催レース

2024年FIA-F4選手権シリーズ第7戦・第8戦

主催

関西スポーツカークラブ(KSCC)/鈴鹿モータースポーツクラブ (SMSC) /ホンダモビリティランド株式会社/株式会社GTアソシエーション

公認

国際自動車連盟 (FIA)

一般社団法人 日本自動車連盟 (JAF)

認定

株式会社GTアソシエーション (GTA)

後援

経済産業省/国土交通省/自由民主党モータースポーツ議員連盟/三重県/鈴鹿市/鈴鹿F1日本グランプリ地域活性化協議会/一般社団法人鈴鹿市観光協会/鈴鹿商工会議所



◆ 参戦体制

■ ドライバー



片山 義章
YOSHIAKI KATAYAMA

生年月日 1993年11月13日
出身地 愛知県
身長 168cm
体重 69.3kg
血液型 RH+O



ロベルト メリ ムンタン
ROBERTO MERHI MUNTAN

生年月日 1991年3月22日
出身地 スペイン
身長 178cm
体重 70kg
血液型 RH+O

■ 代表

古場 博之

■ 監督

小倉 啓悟

■ スタッフ

チーフエンジニア
チーフメカニック

Mattia Oselladore
片岡 恵人

■ スポンサー

アスカ株式会社

朝日金属株式会社

C I S株式会社

株式会社安藤・間

ザーレン・コーポレーション株式会社

城東電機株式会社

T O N E株式会社

ウエスタンデジタル合同会社

D O B O Tジャパン株式会社

株式会社リブレ

ニチアス株式会社

見田工作株式会社

エバー株式会社

愛知電線株式会社

コスモ開発株式会社

笹原金型株式会社

岡田金属株式会社

有限会社大和工業

株式会社ジョイフル設備

有限会社ます徳

エクセルフィルム株式会社

アクセル有限会社

M I D T O W N B B Q

OIRC

カトー機械株式会社

ARMS株式会社

青山エレベーター株式会社

RAIDEN

株式会社デジテックエイチピー

株式会社ジョイフル設備

株式会社マイティミズタニ

株式会社アクトライズ

医療法人社団ヒロデンタルクリニック

高新自動車学校

株式会社アート買取協会

◆ 予 選

天候 晴れ

コース状況 ドライ

気温 14℃ (GT300クラスQ1開始時)

路面温度 24℃ (GT300クラスQ1開始時)

予選開始 14時13分 (GT300クラスQ1開始予定時刻)



VELOREX (Team LeMans)は、昨年に引き続き、SUPER GT GT300クラスに参戦する。4年目となる今シーズンは、マシンをAudi R8 LMSからFERRARI 296 GT3に変更し、マシン名を「UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARI」とした。一方、ドライバーは昨年同様、第1ドライバーに片山義章、第2ドライバーにロベルト・メリ・ムンタンを起用。チーム体制も継続し、2023シーズンを上回る活躍を目指す。タイヤは、これまでどおりヨコハマタイヤを装着する。

今シーズンのSUPER GTの予選方式は、Q1、Q2のタイム合算方式を基本とし、GT300クラスの場合、全車参加で20分間のQ1を行ない、上位14台がQ2 Upper 14th、15位以下がQ2 Lower 15thに分かれてそれぞれ10分間のQ2に挑む。予選順位はQ1、Q2の合算タイムで決まり、Upper14thでQ2を走行したグループの中からポールポジションが決まる。Lower 15thでQ2を走行したチームが合算タイムで最速であっても15番手スタートとなる。雨天の場合、スターティンググリッドはQ2を走行したドライバーのタイムで決められる。なおルール変更によりQ1、Q2でそれぞれ新品タイヤが使用可能となり、レースウィークを通じての使用可能タイヤセット数の制限があるため、昨シーズンにも増してタイヤのマネージメントが重要になる。レインタイヤのセット数制限はない。(※今大会は300KMレースだが、寒さを考慮してドライタイヤは5セットとなっている)

#6 UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARI 出走グリッド : 8位**(公式予選合算タイム : 3分52秒817 / ロベルト選手: 1分56秒231 / 片山選手 : 1分56秒586)**

12月の鈴鹿は予想通り寒く、気温11℃、路面温度12℃というコンディションで9時15分からSUPER GT第5戦(最終戦)の公式練習がスタートした。ロベルト選手がまずはステアリングを握り、2種類の異なるタイヤでタイムアタックをして予選用のタイヤ選定を終えると、片山選手がマシンのバランスをチェック。マシンのフィーリングを確認したところで赤旗中断となり、走行再開で再びロベルト選手に交代し決勝用セットアップを煮詰めていく。公式練習はGT300クラス専有走行時にコースアウトした車両のバックファイアーで芝生が燃えてしまい、消火活動のために再び赤旗が出され、2分間程度を残してそのまま終了となった。

公式予選は気温の低下を勘案して、全セッションが5分間延長され、通常とは異なりGT500クラスの予選Q1からスタートする変則的な予選となった。6号車UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARIは、ロベルト選手がステアリングを握って予選Q1に出走。路面コンディションを考えてピットでウェイティングし、セッションが残り11分を切ったところでコースイン。3周タイヤを温め4周目に一発のアタックで1分56秒231をマークし、8番手。予選Q2をUPPER 14で走る権利を得て、片山選手にバトンを繋ぐ。予選Q2を担当した片山選手もセッション終盤にコースインし、連続アタックで1分56秒589をマークし、同じく8番手。合算タイムは3分52秒817となり、決勝8番手グリッドを獲得した

◆ 決 勝

天候 晴れ

コース状況 ドライ

気温 13℃ (スタート時)

路面温度 17℃ (スタート時)

決勝レース開始 12時40分
(正式スタート時刻 12時57分25秒)予定走行時間 300km
(正式フィニッシュ時刻 14時41分40秒)

#6 UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARI (片山&ロベルト選手)

決勝結果：5位 (47周消化/ベストラップ：1分59秒468=片山選手)

台風の影響で12月に延期になった鈴鹿大会は、最終戦ということでサクセスウェイト0kgルールが適用され、ハンディキャップ無しでの戦いの場となる。チームにとっては、フェラーリ296GT3に車両を変更した1年目の集大成となるレースであり、予選では6号車UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARIのパフォーマンスをふたりのドライバーが引き出して8番手グリッドからのスタートとなった。

決勝当日、20分間のウォームアップ走行の段階からマシンのバランスは良く、片山選手が3番手タイムをマークするなど、午後の決勝に向けての期待が高まっていたが、気温が予想以上に寒くなり、路面温度の低下によってタイヤのウォームアップに不安を感じた部分はあった。決勝スタートは12時57分。交通機動隊を先導としたパレードラップを終えて、全車がタイヤを温めるためにエクストラフォーメーションラップが1周追加され、51週のレースがスタートを切った。

8番手からスタートした片山選手は、スタート直後からアグレッシブな戦いを展開し、1周目のヘヤピンコーナーで1台をオーバーテイクし、1周目は7番手でコントロールラインを通過。その後もハイペースで前を行くマシンを追い続け、前車のアクシデントやトラブルによって5番手までポジションを上げ、FCYが出された際の再スタートも冷静に対処してポジションキープ。各チームがピットに入り始めると、予定どおり17周目にピットに戻り、タイヤ交換、給油を済ませロベルト選手に交代。ピット作業にミスはなかったが、路面温度が14℃へと低下したコンディションでタイヤのウォームアップに時間がかかり、ピットインのタイミングの違いもあって一時は12番手までドロップしてしまう。

しかし一旦タイヤに熱が入り全車がピット作業を終えた段階では6番手までリカバーしており、レース終盤に向けてさらなるペースでプッシュを続ける。残り21周、2度目のFCYが出され、レースが再開した直後に1台をパス。5番手へと浮上した6号車UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARIは大きく開いていたタイヤ無交換の前方グループがタイヤに厳しくなってきたこともあり、1周1秒以上その差を縮め、最終ラップには3位争いの直後まで迫り、一団となって最終シケインに突入したが、僅かに4番手に0.1秒届かず、そのまま5位でチェッカーを受けた。

片山 義章 選手のコメント

「今回は12月開催ということで気温と路面温度がかなり低く、タイヤとのマッチングが心配でしたが持ち込みセットアップでのマシンのバランスも良く、公式練習からずっと大きなトラブルも無かったことで、落ち着いたレースウィークが過ごせました。ロベルト選手が予選Q1でUPPER 14に入ってくれたので、新品タイヤで1周もアタックしていない状況で迎える予選Q2には多少の不安はありましたが、路面コンディションが良くなる予選終盤まで待って、タイヤを少ない周回で温め、きっちりと自分の仕事が出来たと思います。二人の合算タイムで予選8番手は、決勝に向けてまずまずの結果でした。

決勝レースでは、スタート直後から前のマシンをヘアピンコーナーで抜くと覚悟を決めて1発で仕留め、そのまま攻めの走りポジションを上げてロベルト選手にバトンを渡すつもりで思いっきり走りました。前のマシンはストレートが速く、コーナーではイン側ギリギリまで抑えて走るので、接触寸前まで攻め続けましたが抜ききれず、それでも5番手でロベルト選手にバトンを渡すことができました。ロベルト選手も頑張ってくれましたが、路面温度の低下によってタイヤ交換直後のウォームアップに時間がかかり、そこでポジションダウンしてしまったの悔しいですね。

それでも諦めずにプッシュし続け、5位までリカバーしてくれたのは良かったです。

今シーズンの優勝は叶いませんでしたが、チーム全体のポテンシャルは勝てるどころまできていると思います。

明日から来年に向けて、しっかりと準備を整えチャンピオンを目指したいと思います。応援ありがとうございました。」



ロベルト・メリ・ムンタン 選手のコメント

「GT3車両の中では勝負ができるレベルですが、2台のJAF規定車両はとんでもなく速くて、しかもタイヤ無交換作戦ができるチームがいることを考えると、厳しい戦いになるとは思っていました。しかし公式練習からマシンのバランスは良く、片山選手にUPPER 14グループで走ってもらうことができました。

決勝レースに関しては、今日のMVPは片山選手です。彼がポジションを上げてくれたことで、自分も最後の最後まで諦めずにプッシュし続けることができました。あと数周あれば表彰台にも届いたと思いますが、今日はあれが限界でした。ここまで頑張ってきたチーム全員に感謝していますし、来年は勝利のチャンスがあると確信しています。1年間ありがとうございました」



監督コメント

「安定したパフォーマンスが出せた週末だったと思います。予選でのふたりのドライバーにタイム差はありませんでしたし、決勝でのペースも良かったと思います。ピットクルーのミスありませんでしたが、気温と路面温度の関係でタイヤのウォームアップに時間がかかり、ピット作業の後、レースに復帰した際にそこでギャップが開いてしまったのが悔しいです。そのあたりのデータを解析して、ライバルたちのようにタイヤ無交換や、2輪だけ交換といった戦略も含め、来年に向けての準備を始めます。

今年はフェラーリ296GT3で戦う1年目でしたが、マシンのポテンシャルは充分感じていますし、パフォーマンスを全て引き出すことができれば勝てるマシンである確信は持てました。

初期トラブルは出し尽くしたと思いますし、改良点もいくつかあるので、来シーズンが楽しみです。

VELOREXの名のもとに、必ず優勝争いに加わりますので、来年も皆さんの応援を期待しています。今年も1年間、応援ありがとうございました」



WestCove

BLUEGRASS

UNI-ROBO

DOBOT

zahren

TONE

OIRC



KOHSHIN DRIVING SCHOOL
SAFE DRIVE
高新自動車学校

EVER CORPORATION



ニチアス

METAL RECOVERY
OKADA KINZOKU

AOYAMA
ELEVATOR

カトー機械株式会社

Digi-Tec
INTECNO

MAITY
MATTY MOLTAN ENGINEERING SYSTEM

MIDTOWN BBQ
www.midtown-bbq.com

Western Digital.

The
CELLAR
G O T E M B A

ESTATE SALE
SUPREMACY

JOTO DIRECT

見田工作

ASAHI 朝日金属株式会社

RiBLE

HA & A
Human & ARMS

SASAHARA

DALWA

XPEL
J A P A N

ActRizz

英摩法人社団
ヒロ デンタル クリニック

安藤ハザマ
HAZAMA ANDO CORPORATION

AEW 愛知電線

UT Co.,Ltd.

アート
買取協会

Sponsor introduction

VELOREX
Fueled by Ambition